

# 飯南

## いいなん

- 平成23年度 一般会計補正予算
- 全員協議会報告ほか
- 一般質問に6人が登壇
- 採決の結果 ● 議会活動報告
- 議会運営委員会報告 ● 提言書
- 常任委員会報告
- 特集！快拳！谷振興会が総務大臣賞受賞

**飯南町議会** 鳥根県飯石郡飯南町下赤名890番地  
飯南町議会事務局 TEL:0854-76-2190 FAX:0854-76-2867

第27号

平成23年10月20日



### イクメンパパ 大～好き!!

町民運動会に優しいお父さんと一緒にデビューしました。子どもたちはご飯やお風呂など、これから親からいろいろな教えと愛情を一身に受けて育っていくことでしょう。少子高齢化でなくても子どもは地域の宝です。親が子どもに与える最高の宝は「して良いことと悪いことが判断できる力」といいますが、町も、子どもたちに「健やかに育ち、賢く生きる力」を教育過程で豊かに与えていきたいと、保小中高一貫教育を掲げながら地域の皆様と努力していきます。

# 平成23年9月定例会

平成23年度

## 一般会計補正予算を増額

9月定例会は、9月13日から9月22日までの10日間の日程で開きました。

総務厚生常任委員会に自治労島根県本部へ専従職員派遣を決定したことが唐突に報告された。

教育委員会が中学教育へ塾を導入することに賛否両論。教育委員会が中学教育へ塾を導入することに賛否両論。

### 9月定例会で可決された主な議案

**認定** 平成22年度飯南町各会計歳入歳出決算認定

**報告** 株式会社フロンティアあかぎの経営状況報告

**条例関係** 飯南町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の制定など11件

**補正予算** 平成23年度飯南町一般会計補正予算(第5号)など7件

**その他** 公の施設(飯南町障がい者共同生活支援施設)の指定管理者の指定

**議員発議** 住民の生活や生命を守るため「国土交通省松江国道事務所頓原維持出張所」の存続を求める意見書の提出など2件

平成23年度 一般会計補正予算は  
長期債繰上償還、農地・農業用施設災害復旧事業など

## 2億7,163万円増額

各会計	補正予算額	予算額
一般会計	2億7,163万円	73億9,252万円
特別会計		
国民健康保健事業	2,884万円	7億4,463万円
後期高齢者医療事業	0万円	1億6,905万円
介護保険サービス事業	0万円	3,331万円
簡易水道事業	612万円	2億9,357万円
下水道事業	1,453万円	4億1,676万円
病院事業会計	891万円	10億8,606万円

### 決算審査 特別委員会を設置

平成22年度飯南町各会計の歳入歳出決算を審査するため、決算審査特別委員会を設置。

- 委員長 難波俊司
- 副委員長 伊藤好晴
- 委員 瀧尻行雄
- 委員 安部誠也
- 委員 石原敏郎
- 委員 熊谷兼樹

### 陳情

地方消費者行政充実のための国による支援に関する陳情

- (陳情者)  
島根県松江市母衣町55-4  
島根県弁護士会会長 熱田 雅夫
- (審査委員会)  
総務厚生常任委員会  
(審査結果)  
採択

### 意見書

住民の生活や生命を守るため「国土交通省松江国道事務所頓原維持出張所」の存続を求める意見書

頓原維持出張所が廃止されることになれば、生活関連に伴う道路の維持管理が縮小されるとともに、土砂災害・豪雪時の住民生活や生命も脅かされることになる。

よって、「住民の生活や生命を守るため国土交通省中国整備局松江国道事務所頓原維持出張所」の存続と建て替え促進を求める。

地方消費者行政充実に対する国の実効的支援を求める意見書

国による地方消費者行政の充実策が検討されているが、地方消費者行政に対する国の役割・責任が不明確となることが懸念される。

- 1 [実効的な財政措置]
- 2 [地方自治体にとって利用しやすい制度枠組みの提示]
- 3 [消費生活相談員の地位・待遇の向上を可能とするができる任用制度の創設]

を求める。

## 議会全員協議会の議題

### <7月23日(土)>

- ・JA雲南肥育センター(赤来肥育センター)使用の稲わらからの基準値を超えるセシウム検出について

### <8月1日(月)>

- ・公共施設災害の査定結果について
- ・来島保健センターに職員配置を行わないことについて
- ・平成23年度国民健康保険料の本算定について

### <9月22日(木)>

- ・志津見ダム説明会について
- ・アンテナショップのコンセプト(概念)について
- ・地域を支えるNPO法人の設立について
- ・飯南町総合的な雪対策について
- ・雲南クリーンセンター汚泥共同処理について
- ・JA雲南堆肥センター放射性セシウムに汚染された堆肥の処理について

※今回から、全協での議題を議会広報で掲載することになりました。

### ～議会全員協議会とは～

飯南町議会の全員協議会は、地方自治法及び会議規則に基づいて設置されたものではない。従って非公開で開催している。全協は提出予定案件の取扱い、議会の運営に関し協議または調整するために議長が招集する。



頼原小・復旧された教室での授業風景

# 9月定例会 町政を問う 一般質問

## Q 頼原小の雪害後は 10月から教室で授業



瀧尻行雄議員

私は3月議会において頼原小学校の雪害について一般質問したが、その後の復旧状況はどうか。

また、児童達の学習面、精神面の状況についての答弁を求める。

安部 巨教育長

雪害復旧工事は9月末に完了し、教室は10月から使用する予定だ。

今回の被害について、最終的な総括を行い報告する。

児童達は通常と変わらず元気でしっかりと学習している。

## Q 教育体制に弊害感 A 学力向上を目指す



瀧尻議員

私は、中高一貫教育とゆとり教育の弊害がある」と理解している。

教育長は、義務教育を充実させるのか、それとも学習支援館による学習塾で学力向上を目指しているのかを問う。

安部教育長

中高一貫教育については、現在のところ残念ながら検証していない。

学校教育の充実と、学習支援館による子どもたちの学習の習慣づけをすることの両面で、今後の学力向上を目指したい。

## Q 汚染稲わら対処は A 耕畜連携で考える

瀧尻議員

東日本大震災により原発事故が発生し、大量の放射性物質が放出された。JA雲南は東北産稲わらを使用しており、事故後も移入し続けたことにより、汚染された稲わらを与えられた疑いのある牛肉が出荷されていた。

現在も汚染稲わら・堆肥は保管されている。牛肉は分析の結果、基準値未満であったが、この現実をどう考えているのか。生産者の不安にどう対処するのか。

農家は大きな不安と失望をしている。説明責任はどう取る、情報公開はされるのか。

また、町は地産地消と叫ぶが、稲わらは使われていない。これを収集する具体策を講ずるべきだ。

山崎英樹町長

宮城県産稲わらを仕入れたことは、結果としてチエックが甘かった。農産物全てに通ずることだが、流通経路を明確にすることで徹底を図る。

関係牛肉に関しては、全頭検査により安全性が証明され、心配された子牛価格も直近の市場では落ち着いている。

暫定基準値以上の堆肥は、国の方針により処分する。また基準値以下のものも農産物生産には使わない。

これらの問題についてはJA雲南は8月24日、集落共同組合長会で説明し、広報誌へ掲載、HPでも情報公開している。町としても、地元へ逐次情報を提供していく。

町内産の乾燥した良質稲わらの確保は、本町の気象条件では難しい。集落畜産を念頭に置き、稲わら収集機の導入助成を行い、耕畜連携の仕組み作りを検討する。



全国和牛登録協会 上坂章次会長(当時)の揮毫による記念碑(昭和54年10月12日竣工) 和牛振興3条件 「人づくり・牛づくり・草づくり」

## Q きのこ生産展望は A 新種きのこに期待



長島正一議員

当町では、菌床しいたけ生産団地を有しているが、菌床の自家生産の考えは。

舞茸設備は老朽化しており、計画的な対策を取っていかねば衰退も考えられる。

販売店は新種のきのこを求めており、新しい戦

略を構築するチャンスだ。原木しいたけは直売所の人気商品だ。当町の山林資源を活用し、新たな生産システムで取り組むべきだ。

山崎英樹町長

本町で生産されている菌床しいたけは「奥出雲しいたけブランド」で販売されているが、菌床購入費のウエイトが大きい。ため厳しい経営状況にある。菌床の自家生産は検討の余地がある。

舞茸の菌床は自家生産だが、生産機械は老朽化が進んでいる。

新種のきのこは、市場調査や具体的な検討を進めているところだ。また、原木しいたけ生産は検討していく必要がある。

ほだ場 原木しいたけの

## Q バイオマス構想は A 雲南市と連携検討

長島議員

木質バイオエネルギー活用のため実証実験が行なわれているが、本格稼働に向けた構想は。

間伐材などを回収し、地域通貨で買い取る事業が当町でも検討されているが、進める考えは。

山崎町長

昨年度より、まきの販売事業化調査を行った。将来は公共施設への新エネルギー施設を導入し低炭素化を進める考えだ。

木質バイオマスの活用は熱源のほか、蒸気による発電も可能で、既存の温浴施設に利用を検討している。

住民が搬出した木材を地域通貨で買取り、これを商店などで使ってもらい取り組みを雲南市が検討されているので、当町も連携してみたい。

## Q 肥育事業の継続を A 再稼働の考えある

長島議員

JAの肥育事業縮小計画により、本町の2肥育センターが廃止されることになった。循環型農業を目指す本町のイメージダウンにつながるが、方策はどうか。

雇用の場である加工分野へ波及すれば深刻だ。影響をどう考えているか。

稲わらから放射性セシウムが検出された事件は堆肥センターにまで波及した。この機会に農業コントラクターを立ち上げるべきだ。

山崎町長

肥育センターの再稼働は行政・JA・農家が協力し経営体を立ち上げる

考えだが、放射性セシウムの事件があり中断している。

JAの肥育センター事業は開始時の平成6年では、農家数2425戸、繁殖牛5905頭だったが、現在は農家数516戸、繁殖牛1991頭だ。

肥育経営の状況は枝肉価格の下落、国による価格補填の減額、飼料の高騰などにより経営が悪化している。

肥育頭数の減少でミートセンターと萌美野に影響が懸念される。ミートセンターは和牛の取り扱数量の減少を、豚、鶏肉の取り扱いにより事業を確保する考えだ。

農業コントラクターは今後検討する。

※農業コントラクター…飼料生産受託組織

# 9月定例会 町政を問う 一般質問

**Q** 放射能汚染対応を  
**A** 国に要望していく



伊藤 好晴 議員

原発事故によって、放射能への不安が強まっている。その実態を把握し、リスクを明らかにして、国民の命と健康を守るため、対策を講じるべきだ。

①放射能汚染の実態を把握し、「放射能等の分布マップ」の作成。  
②自治体へ専門家の派遣、相談体制の確立、十分な財政支援等の体制整備を国に求める。

本町の堆肥は出荷されていない。農畜産物の安全性のPRをすべきだ。

モニタリングの増設など対策強化を進めている。今後も必要なことは国へ要望する。

本町として汚染堆肥は使わない方針であり、町内農産物の安全性は確保されているが、PR、情報の出し方には慎重な対応が必要だ。

**Q** 5歳児健診を  
**A** 体制づくりを検討

伊藤 議員

運動や言語の発達が良好な幼児でも、集団生活になじめない場合がある。そのことを3歳児健診で指摘することには限界があるとされている。

保護者が、気づきの無いまま就学を迎えるという事態の発生に、この制度のニーズがあると考えて。町長、教育長の所感を。

山崎 町長

本町の乳幼児健診は、4回実施している。

**Q** 住宅リフォーム助成制度の延長を  
**A** 効果を検証して



伊藤 議員

この助成制度は、地域経済に多大の役割を果たしてきた。

また、国交省の「長期優良住宅の普及促進に関する法律」にも合致し、既存住宅のリフォームによって住宅の長寿命化が図られることから、継続すべきだ。

山崎 町長

国による経済対策の実施を受け、3年の期限をつけて実施した。

126件で、3億円余の工事に結びつき波及効果があったが、鈍化傾向にある。事業の位置づけも検討しながら、継続について考える。

**Q** CATVの管理は  
**A** 指導不足があった

伊藤 議員

8月25日のアナログ波の停波により、視聴者に不利益が発生している。STBの設置状況を把握しているのか。

また、聴取料の二重請求があったが、どう考えているのか。CATVの顧客管理は皆さんではないか。

山崎 町長

STBの未設置は121戸。長期不在等により連絡が取れない世帯が主で、連絡周知に努めているが、私の指導不足もあり、陳謝する。

課金については、管理者として事務処理の徹底を指導する。

**Q** 町長交際費公表を  
**A** 今後公表する



安部 誠也 議員

合併して7年目だが、未だに町長交際費はなぜ公表されないのか。

他市町村で公表されている交際費支出基準は、本町にもあるのか。

今年度は、昨年と同額の123万5000円だが、その使い道は。

山崎 英樹 町長

公表の必要性があり、どの方法がいいのか検討している。町長交際費支出基準は、内規であるが平成18年4月1日に制定した。

平成22年度は慶祝、記念式典等を含めた支出が31件で17万9360円。弔意・香典が9件で7万円。会合等の会費は16件で15万3500円。接遇懇談の飲食費や意見交換の懇談費用が28件で59万6358円。賛助費が23件で21万3782円。視察訪問先への謝意が2件の2万2000円。合計109件の123万5000円を支出した。

**Q** 抜本的産業振興を  
**A** 町をあげて取り組む

安部 議員

町内では今年に入り商業施設が相次いで閉鎖された。尾道松江線が開通すれば、もっと深刻になると予測される。

国道54号活性化アクションプランは、イベントばかりだが、住民の不安を解消できるのか。いまこそ観光と産業振興による抜本的な施策を打ち出すべきだ。

山崎 町長

総合振興計画には住民自治のルールである「まちづくり条例」の制定を検討することが明記してあるが、次を問いたい。

**Q** まちづくり条例は  
**A** 機運の高まり待つ

安部 議員

山崎 町長

アクションプランだけで町民の不安を解決するものではないが、開通後も、町民、事業者、行政とが、「思い・力」を一つにして取り組むことが、魅力あるまちづくりに繋がるものと思っている。

①自治の基本理念と本町の最高規範とは何か。  
②これまでの研究や検討の経過と今後の対応は。  
③条例制定への手順と手法は。

山崎 町長

①自治の基本理念は、「住民皆が平等に尊重され、自らの意見と責任を持つてまちづくりに参加し、

**Q** 災害協定を三次と  
**A** 邑南町協定が基本

安部 議員

本町と三次市との災害協定の締結が予定されているが、その内容は、災害時の救援物資などを搬送する赤名トンネルは老朽化している。不安解消のため、両市町で赤名トンネルの改良を国や県にさらに要望すべきだ。

山崎 町長

この応援協定は、三次市と邑南町とが結んだ内容を基本としている。

赤名トンネル改良は、協定時に三次市に協力をお願いしなければならぬが、了解を得ている。

その外に、安部議員から次の質問がありました。

◆赤名川改修実施時期と赤名ほとん園周辺対策について町長に答弁を求めた。

赤名トンネル広島県側

# 9月定例会 町政を問う 一般質問

## Q 来島診療所の今後 A 医師の確保を急ぐ



**安部 朋次議員**  
安田医師は、平成23年度より来島診療所長から飯南病院長となり、診療所の体制が変更された。診療所の特徴である、顔の見える診察、予防医療、

在宅医療がどのように変わるのか危惧される。

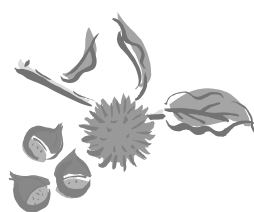
診療所は、飯南病院の運営状況によっては重要な医療施設だ。飯南病院の付属施設なのか、単独の医療施設なのかの位置づけを問う。

## 山崎英樹町長

本年4月より、来島診療所長だった安田医師に、飯南病院長として就任いただいた。

安田院長は、来島診療所で生きがい村という理念のもと、保健・医療・福祉の連携に努力されたが、その生きがい村構想は、飯南町全体の構想として位置づけることになった。

飯南町の医療体制は、飯南病院、来島診療所、志々、谷の出張診療所の地域医療を維持していくことが必要であり、来島診療所の医療機能は重要だ。その為にも医師の確保に全力をあげて取り組む。



## Q 公民館の体制は A 現在の形態を維持

**安部議員**

現在、教育委員会において公民館の体制について検討されているが、飯南町の公民館を、中央公民館として位置づけるのか、これまでの並列的な組織として継続するのか、体制について問う。

## 安部 巨教育長

現在、公民館の体制強化にむけて検討を始めているが、5館の体制が整った段階で、中央公民館的なの、町全体の公民館の体制の在り方を求めていくことになると思う。

中央公民館の検討はまだ始めていないが、現在の公民館の基本形態は維持していく必要がある。

## Q 学習支援館周知を A 保護者はこれから

**安部議員**

高校生、中学生を対象とした、学力向上のための教育委員会として学習の場を設けて、生徒の学力アップを行う事業が展開されようとしている。

計画されてから、これまで関係する学校や保護者とのように協議してきたのか、特に両中学校の保護者に周知が、十分行われているのか。

## 安部教育長

学習支援館の位置づけは、本町が取り組んでいる保小中高一貫教育の、特に中高一貫教育を、よりスムーズにつなぐ事業と考えている。

中学校との協議は進めてきており、趣旨は全職員に十分に届いていると思う。

赤来中学校の生徒にのみ事前説明を行なっており、また、保護者への説明はこれからの課題であり、あらゆる機会を通して周知していく。



学習支援館の開校式  
(10月6日)

## Q 町政が楽観的では A 計画的に進める



**石原敏郎議員**  
山崎町政は楽観過ぎる。最悪のシナリオを考え、最良の対策や政策を打つべきだ。

また、職務責任を明確にし、職員挙げて緊張感ある町政執行にあたるべきだ。

## 山崎英樹町長

総合振興計画策定にあたり、人口減少などを想定し、今なにを為すべきかを計画している。

それぞれの立場で一定の責任を持って職務を果たして行くことが基本だということ、肝に銘じていく。

## Q 給与と相応の仕事 A 自覚して職務専念

**石原議員**

古来より「民のかまどを思いやる政治的なもの」の考え方がある。町民のふところ具合を思いやり、町内の一般の人より恵まれた職員給与は、それ相応の仕事をして町民に還元すべきだ。

## 山崎町長

町内民間企業の給与体系は調査していないが、町民の暮らしについては一番に気をつけている。職員給与は高くて当たり前とは思っていないし、

## Q 新庁舎は再検討を A 建設は期日もある

**石原議員**

(株)琴引フォレストパーク(株)サブロ島根が倒産したが、2件とも町民は町長の説明に従わざるをえなかった。

新庁舎新築に関し、町政座談会で町長は、非常に狭い選択肢しか示さなかったが、これでは、またも町民は町長の考えに従わざるをえない。

私の意見を念頭におき、新築以外にも良い方法があるか、答弁を求めた。

あることを、今一度真摯に考えるべきだ。

## 山崎町長

財政問題を主体にした狭い情報しか出していないの指摘は、その通りだと思ふ。

ただ重ねて言うが、やはり財政のことを考えれば、建設に一定の期日はあると思っている。

◆ 町長が結果の平等を求めるあまり本町は低位安定となっている。時には非情になつて政策課題の解決に当たることが、見解を求めた。

◆ 山崎町政2期目もあと1年しかないが、産業は育っていない。新たな地域政策を実現する具体的行動指針があるのか、答弁を求めた。



立ちのぼる煙に町民のくらし



来島診療所



# 議会運営委員会報告

委員長  
安部 誠也

議会全員協議会での協議項目を、議会報に掲載することに決定

当町の全員協議会は非公開であるが、議会広報特別委員会からの申し出により、協議項目について「議会報飯南」に今号から掲載する。

## 議会基本条例制定へむけて協議

議長の諮問により、議会運営の基本原則を定める「飯南町議会基本条例」の制定について協議することとなった。



議長から議会運営委員会へ諮問

### 議会基本条例とは

地方議会の運営をどのように行うかを定めた条例である。2006年に施行された北海道栗山町の「栗山町議会基本条例」が最初と言われている。

### 議会運営委員会とは

円滑な議会運営を期すため、議会運営の全般について協議し、意見調整を図る場として設置された委員会。

# 提言書

前期の総務厚生常任委員会（瀧尻行雄委員長）は、「飯南町の医療はどうあるべきか」というテーマで2年間視察研究を重ね、議長を通じ町長に対して次の提言を行なった。

- 執行部と病院幹部で懇談会を月1回以上開催すること  
病院内の問題点や行政の抱える課題を相互に理解し円滑な病院経営を行うために必要だ。
- 一般事務職の人員を削減してでも病院に対する人員配置を手厚くすること  
病院の黒字化には最低10対1以上の看護基準を満たす必要がある。看護助手の配置で、看護師の負担軽減を図べきだ。また、看護職員が出産・育児に専念できるようにすれば、定着率が向上し、病院体制を充実させる効果が期待できる。
- 自前の医師確保に引き続き全力で当たること  
病院・診療所は地域住民の家庭医として位置付けられ、住民と医師が強い信頼関係で結ばれるためには、転勤が無い方が良い。
- 病院機能評価の受審  
現状の客観的把握、改善のきっかけ作り、効果的で具体的な改善目標設定の目的で行うもの。ISOの病院版のようなもの。良い評価は住民の信頼につながる。
- 医療職員研修制度の充実  
医師、看護師、保健師等の研修によるスキルの向上はサービスを受ける側にとって重要だ。また本人のモチベーションを高める効果がある。医師は新たな技術習得のため、年数回1週間以上連続して研修出来るようにすれば、さらに効果が上がる。  
ゆくゆくは研修を受け入れる機関になることも考え、更なる医療技術の向上に努めるべきだ。



飯南病院

- 医師、看護師、保健師の連携強化  
在宅患者や退院後の患者の様子を地域に住む看護師や保健師が逐次医師に伝えることにより病変があったとき、迅速で確実な対応が出来る。院内でも患者の情報が正確に医師に伝えられ、逐次医師の判断を仰ぐ体制強化で、病変へ迅速な対応が可能になり、医師への負担を軽減できる。
- 定住対策の強化  
子育て支援、住環境の整備、教育環境の充実をさらに進め、医師や看護師も家族で住みたくなくなるような定住対策を考えるべきだ。

## 第6回 9月定例会における採決の結果

件名	結果	安部 朋次	小野 寛	難波 俊司	瀧尻 行雄	伊藤 好晴	永井 章	長島 正一	門 眞一郎	安部 誠也	石原 敏郎	熊合 兼樹
平成22年度飯南町各会計歳入歳出決算認定(決算審査特別委員会へ付託)	—											
株式会社フロンティアあかぎの経営状況報告	—											
飯南町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町障がい者共同生活支援施設の設置及び管理に関する条例の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町学習支援館の利用に係る使用料条例の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町職員の特殊勤務手当に関する条例の改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町税条例の改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町災害弔慰金の支給等に関する条例の改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
滞在型市民農園の設置及び管理に関する条例の改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町病院事業の設置等に関する条例の改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町定住促進空き家活用住宅の設置及び管理に関する条例の改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町移住体験住宅の設置及び管理に関する条例の改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町定住促進賃貸住宅の設置及び管理に関する条例の改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度飯南町一般会計補正予算(第5号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度飯南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度飯南町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度飯南町介護保険サービス事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度飯南町簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度飯南町下水道事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度飯南町病院事業会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
公の施設(飯南町障がい者共同生活支援施設)の指定管理者の指定	可決	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○

## 第6回 9月定例会における議員提出議案採決の結果

発議第4号 地方消費者行政充実に対する国の実効的支援を求める意見書の提出	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
発議第5号 住民の生活や生命を守るため「国土交通省松江国道事務所頓原維持出張所」の存続を求める意見書の提出	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 第5回 臨時会(8月1日開催)における採決の結果

町道松本頓原線道路改良工事(交付金)請負契約の締結	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度飯南町一般会計補正予算(第4号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 第4回 臨時会(7月4日開催)における採決の結果

財産(除雪ドーザ)の取得	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度飯南町一般会計補正予算(第3号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○賛成議員 ●反対議員

## 議会活動報告(7月~9月)

### 7月

- 4日 第4回臨時議会：財産(除雪ドーザ)の取得、頓原小学校修繕費
- 5日 議会広報編集委員会：委員会報告、紙面校正作業
- 6日 総務厚生常任委員会視察研修(鳥取県日南病院)
- 9日 近畿赤来会総会(大阪市)
- 12日 議会広報編集委員会：紙面校正作業
- 14日 教育経済常任委員会
- 21日 教育経済常任委員会
- 23日 議会全員協議会
- 25日 雲南広域連合議会臨時会
- 27日 教育経済常任委員会

### 8月

- 1日 第5回臨時議会：工事請負契約の締結、除雪活動支援事業費、議会構成替
- 6日 総務厚生常任委員会：県消防操法大会激励
- 19日 庁舎問題調査特別委員会
- 23日 県町村議会広報研修会
- 24日 総務厚生常任委員会
- 25日 教育経済常任委員会
- 26日 雲南広域連合議会定例会

### 9月

- 9日 議会運営委員会：9月定例会の提出議案、日程外の協議
- 13日 9月定例会：本会議、町長行政報告、提出議案の説明、質疑
- 16日：本会議、一般質問
- 20日：委員会審査
- 21日：委員会審査
- 22日 9月定例会：本会議、討論、採決
- 28日 庁舎問題調査特別委員会
- 29日 島根県町村議員研修会(松江市)
- 30日 議会広報編集委員会：一般質問要約作業



## 教育経済常任委員会 委員長 門 眞一郎

### 飯南町学習支援館の利用に係る使用料条例の制定

学習支援館は、生徒に正しい学習習慣を身に付けさせ、就学意欲を喚起し、学力の向上を図ることを目的としているが、この手法をめぐるそれぞれの立場で賛否激論が交わされた。以下、委員会の発言要約を掲載。

委員：学力が伸び悩んでいる理由は中高一貫教育にある。本来、義務教育は学校教育で完結すべきで、ここに力を入れれば高校や大学に入ってから学力が伸びるだけの基礎が付くはずだ。

委員：小規模校は生徒一人ひとりに対し手厚い対応が出来ることがメリットだが、現実にはそうっていないのではないかと。

委員：学習支援館は来島に開設が予定されているが、義務教育の機会の平等性を欠く。保護者への説明は。



除雪作業

教育長：保護者に対し意向調査は行ってない。中学に対しては頓原地区での開校も考える。

委員：義務教育の義務は誰にある。

教育長：保護者に教育を受けさせる義務があり、子供には教育を受ける権利がある。

委員：学習支援館に対し設置と管理に関する条例が必要ではないのか。

教育長：ソフト事業なので必要ないと考えている。  
委員：業務委託を受ける塾は大手ではないので対応が柔軟だ。本町にあった地域教育と一緒に目指して欲しい。

委員：不景気が続いている中、多くの家庭で収入が減少している。減免でなく、免除を考えるべきだ。

委員：教育長は日ごろより、親の収入が子供の将来を左右するようではいけないといっている。まったく同感だ、この精神を大切にしたい。

当委員会は「中学生に対する受講料を無料とすること」と「赤来、頓原の両地区で開講すること」の2点を付帯決議とし可決した。



## 総務厚生常任委員会 委員長 長島 正一

### 障がい者共同支援施設の設置及び管理に関する条例の制定

障がい者に対し、自立した日常生活や社会生活を共同して営むことができるように、必要な介護・支援・相談等を行う施設を建設し、管理を行うための条例を制定。

この施設の指定管理者に、株式会社あゆみを指定した。



株式会社あゆみ

### 平成23年度 飯南町一般会計補正予算(第5号)

#### 普通交付税の減額と臨時財政対策債の増額

当初予算に対して普通交付税は、東日本大震災、昨年の国勢調査による人口減等の影響により1,885万円余減額。臨時財政対策債(実質的な普通交付税)は、3,770万円増額した。これは、当初予算額を低く見積もっていたため、本年の普通交付税確定額が減少に転じた点が憂慮される。

今後、国の財政状況が厳しさを増せば、地方財政への影響が懸念され、一層の財政運営健全化が求められる。

#### 加田の湯増築工事等に町債580万円を増額

当初は、現在の施設に併設する計画であったが、中四国農政局の指導により、別棟として設置することになり増額補正。

事業内容変更による補正だが、当初から綿密な事業計画を立てた上で着手すべきと、委員から厳しい指摘があった。



飯南病院ナースステーション

### 飯南病院の運営状況と夜間看護手当の増額

#### 現在の飯南病院看護体制における問題点

産前産後休暇及び育児休業取得職員の増加により、「10:1入院基本料」という制度を維持することが厳しい状況にある。夜間看護専従者の確保を図ることにより就労環境を改善するため、夜間看護手当を増額(臨時・嘱託等で329万円)。

#### 災害対策に234万円を計上

災害にそなえ、毛布等の備蓄資材を購入するもの。非常食に50食が計画されているが少ない。雪害時の対応として電気に頼らない機器の調達も必要である等の意見が委員からあった。

### 執行部より総務厚生常任委員会へ対する報告事項

#### 自治労島根県本部の要請により、当町より専従職員を派遣

旧頓原町の例や自治労の現状、本人の判断等を考慮して町長が許可した。

専従職員に対しては町から給与は支給しない。また所属課に正職員の配属はせず、臨時職員で対応するため2名分の賃金と共済費が今回の補正に計上された。

これに対し委員より、県観光振興課への職員派遣等の要望に対し人員不足を理由に派遣しなかった前例があるので、自治労からの要請には応えるべきでないという意見があった。

### 平成23年度飯南町一般会計補正予算(第5号)

#### がんばる地域応援総合整備事業～224万円

全額県からの補助金で、新分野に進出し雇用の増大と経営の確立を図るための事業で、町を経由し農業法人に補助される。

委員から、この農業法人に対しこれまでの補助事業を含め、適切に事業効果を上げているのか検証すべきとの意見があった。

#### 道路橋梁費の補正

- ・除雪機械整備事業の減額  $\Delta$ 1,287万円
- ・町道三瓶公園線整備事業 1,300万円

除雪機械を導入するため入札を行ったところ、1,287万円予定価格より安く落札したために減額した。これを事業振り替えて、町道三瓶公園線を整備する。

委員からは、ロータリー除雪車をもう1台購入すべきではなかったかとの意見があったが、検討した結果、納期が今シーズンに間に合わない恐れがあり、断念したと回答があった。

※付帯決議とは…議会または委員会における審議の対象である事件の議決にあたって付けられる意見、または要望の決議のことをいう。法的な拘束力はない。

# 快挙

過疎地域自立活性化優良事例表彰において

## 谷自治振興会が総務大臣賞を受賞!!

地域づくりは自立の精神  
谷自治振興会会長 澤田定成氏に  
インタビューしました



谷自治振興会  
会長 澤田定成氏

**問** 次々と先進的な事業  
に取組まれている。  
事業継続の秘訣は何か。

**答** 谷地区は60歳以上が  
半分よりちょっと多  
い。若い人は少ないよ  
うだが、バランスが  
いい。中心となつて活動し  
ている50代60代は若いとき  
から色々な活動に参加して  
きている。

ひと声掛れば、10人や  
15人はすぐに集まって、  
よしやるぞという体制が  
取れる。若い人は今は活

動に参加できない人もい  
るが、何年か先には一緒  
にやれると確信している。

デマンドバスはど  
ん利用者が増える状態と  
いうのは決して良いとい  
えない。利用者が多いの  
は交通弱者がたくさんい  
るといふことだ。事業の  
継続はこれから退職して  
地域に帰ってくる人たち  
も参加し担ってくれると  
思っている。

デマンドバスの維持費  
や運転者への謝礼は、住  
民にバスのためだけに  
戸いくら負担して欲しい  
とは言にくい。県や町  
からの補助や視察料が主  
な財源だ。

運転者は仕事の都合を  
付けてどうにか回ってい  
るが、喜んでもらえるこ  
とが力になっている。  
父親が一生懸命活動し  
ている姿を見てきた子供  
たちが、やがて帰ってき  
て活動を引き継ぐ。神楽  
がいい例だ。

**問** JAの撤退、保育所、  
小学校の統合などを  
克服して地域を守ってこ  
られたが、どのような努  
力があつたのか。

**答** 一番大きかつたのは  
ここに公民館(現公  
民館長 永田一博氏)があ  
つたことだ。常駐の担当  
者がいて支所の機能もは  
たしてきた。

旧谷小学校は先生や子  
供や年寄りや地域の人が  
かわりを持っていて、  
目に見えない力を持って  
いた。谷笑学校に衣替え  
したが、元の小学校のよ  
うに地域の人が深い係わ  
り合いをもてる施設にな  
ればよいと思つている。  
また、たくさんの方が  
ここを訪れ、交流の拠点  
として機能することも考  
えていきたい。



デマンドバス

**問** 行政に求めることは  
あるか。

**答** 求めることはたくさ  
んある。事業のため  
に色々な補助金の申請を  
してきた。

しかし、やれるところ  
までは自分たちでやって  
いく考えだ。どうしても  
出来ないところを支援し  
て欲しい。だからあれも  
これもやってくださいと  
言うつもりは無い。

金があつて動くのか、  
動くから金が必要のかだ  
が、金のためにやらされ  
る事業はやりがいを感じ  
ない。  
自分たちで努力してこ  
そ達成感を味わえる。行  
政は若い人たちがやる気  
を出すような金の使い方  
をして欲しい。

### 編集後記

飯南町議会は8月1日、議  
会構成を再編し、心機一転全  
員で頑張っています。

議会広報編集委員会も新メ  
ンバーとなり、町民の皆様に  
“親しまれる広報づくり”に精  
一杯努力しております。

町内は、ほぼ稲刈りが完了  
の様子であります。台風に見  
舞われ稲の倒伏には心を痛  
められたことと存じます。

生産者米価が少しでも上昇  
すればと希望しつつ、また、  
安全に秋作業が完了となるこ  
とを祈念して、あとがきとい  
たします。

議会広報編集委員会  
瀧尻 行雄



今号の編集会議